

令和4年度 第2回介護保険運営協議会 会議録

- 1 開催日時 令和5年3月29日(水)午後1時30分から
- 2 開催場所 胎内市役所 2階 大会議室
- 3 出席委員(12名)

小林 健作(委員長)	佐藤 謙爾(副委員長)
渡邊 順	皆川 謙二
宮下 洋	緒形美佐子
春木タツ子	久保田育宏
津野 麻美	加藤 武
傳 秀子	伊藤 武

※欠席委員 金子千恵委員、奥村町子委員

4 議題

- (1) 令和5年度介護保険事業特別会計当初予算について
- (2) 「フレイル診断 Web ページ」について
- (3) その他

5 議事録

(須貝福祉介護課長)

開会

(小林委員長)

開会のあいさつ

(事務局 信田介護保険係長)

令和5年度介護保険事業特別会計当初予算について(資料1)により説明

(小林委員長)

これは事前に委員の皆様方のお手元には配布済みでありますので、それぞれ今まで目を通されてきたことでご質問等ご意見ありましたらどうぞ。

(佐藤副委員長)

いま保険給付金給付額の所で4年度のだいたい決算見込みという数字で表してくれまして、予算等の実態との違い見えたのですけれど、4年度の決算見込みというのが1つあると予算が前年度とあまり変わらないとしても4年度の決算見込みもそれくらいなのかなというので想像できるので、分かりやすくなるかなと思いました。

(事務局 信田介護保険係長)

ではその様にうまく変えて分かりやすい感じで次回お示しできるようにさせていただきますと思います。

(小林委員長)

そうですね。3億何千万のずれがありますからね。それが出てくるとより分かりやすいですね。

(事務局 信田介護保険係長)

わかりました。

(小林委員長)

ほかにございますでしょうか。

私から2つお願いします。1つ歳入の所なのですけれども、それぞれ1号2号、そして国、県、市からの繰り入れ、もう一つ調整交付金が5%あると出てくるのですけれども、この歳入の所で調整交付金というのはどこの項に入るのでしょうか。

(事務局 信田介護保険係長)

歳入3番目の国庫支出金財政調整交付金、説明欄に負担割合5%とあります。

(小林委員長)

この5%がそれなのですね。よくわかりました。次2つ目は歳出の所です。この後の議題にフレイル診断について特に市の方では5年度に力を入れて市民広報も努めるしという事でいろいろとお金が掛かる事になると思うのですが、この歳出の所の支援事業のフレイルについての事業費はどこに出てくるのでしょうか。

(須貝福祉介護課長)

わたしの方から、歳出3番目の地域支援事業の所に一般介護予防事業費で、65歳以上の高齢者全般に渡る普及啓発といった所もございまして、その一環としてこのフレイルチェックを含めたフレイル対策の取組みも行っておりますが、その他にも介護予防日常生活支援総合事業の所、こちらの総合事業のサービスは3番の地域支援事業費の2点目のサービス事業費の所に掛かってまいります。そこで短期集中型の介護予防教室とかをこの予算を使ってやっているのですけれども、その所でもフレイル対策といったところで進めて行こうという事で計上しておりますが、なおこちらのフレイルチェック、Web ページの作成費につきましては、実は国の方の地方創生臨時交付金というものがございまして、全額国の交付金を使ったところで令和4年度に事業化をして、そこから執行しているので、市の持出しは無くこれから出来上がる状況でございます。

(小林委員長)

そうすると介護予防についてフレイルというのは注目がずっとされてきておりますので、お金が掛かるのにとあって、足りなくない様に国からのそういったお金があればなおさら有難いですが、それはわかりました。他にございますでしょうか。

それでは1番の当初予算についてはこれで協議会の方、了承されましたのでよろしく願いいたします。

次、議題の2番目にいきます。フレイルについてどなたか。

(事務局 井川地域包括支援センター係長)

「フレイル診断 Web ページ」について(資料2)により説明

(須貝福祉介護課長)

補足説明

(小林委員長)

私もいま井川さんのお話を聞きながらさっき Web ページ見てみました。通いの場、あといろんな所での利用されていない皆さん方の周知、確認、点検まではそこまでは市民大勢ですからしていただけませんけれども、しかしある程度 Web ページ載せて1か月、2か月後、市民の皆さんにどの位このページの周知がなされているのかということをご

かでチェックしなければ、さて載せましたしかし市民の皆さんは見ない人もいた、見ていたけれどもそのまま聞き流すように終わってしまったということでは効果が上がらないわけですので、通いの場は市内に30数か所あって、そういう所でやるのはとくにフレイルについては触れてある事だと思いますので、そうでない皆さんへの周知、事務局として確認というかどこまでどう市民の所に周知が進んでいる、広報されているかということをご確認ください。必要だともう思っています。

(事務局 井川地域包括支援センター係長)

実はこの診断をしておられるとうちの課に情報が来るので、当然個人情報とか入らないので、何歳、男性女性の方で、この方が全項目のこういう所だったよというのが全部来ます。これで大体何人の方がこの検索をしてもらったかという事は分かるのですね。ただそれだけではもちろん足りないと思っていますので、少しずつ広めて行きたいと思えますし、また高齢者の中にはなかなか皆さんも最初そうだと思うのですが、携帯を使って診断をするという、携帯の機能を使いこなすというのが難しい方もいらっしゃると思いますので、その方達にはフレイル診断のパンフレットを使いながら説明をしてご自身の状況を分かっていたら取り組みもしていきたいなと考えています。

(小林委員長)

ここに胎内市のフレイル対策という冊子、去年この委員会に出された。これ私等委員の方にフレイルについてということで大変いい勉強資料になったのが持っていますけれども。新年度集中的にこれに取り組んで、そして地域のお年寄りが茶飲み話に「おいフレイルと来たけれど何の事だかお前さん分かるかね」という所まで皆さんの所に言葉として広まるのであれば、何だか知らないけれどそういうのであれば予防効果があるのだから介護になりたくもないし、という気持ちが向くそんな取り組みを期待します。

(須貝福祉介護課長)

市報、令和5年度に介護予防の特集記事を3ページになるか4ページになるかなのですけれども、そういった所を活用しながらいろんな方面から周知をしていきたいと思っております。

(小林委員長)

私は去年と一昨年この場でお話したのですが、フレイルは運動機能、身体、そして栄養といろいろとありますけれども、口腔ケア、口の中の健康が大変注目されているのです。いろんな所を見ると口の中で誤嚥性肺炎のもと、だいいち歯周病菌というのは血管を通して全身に回って、そして脳、心臓、糖尿病、その他あちこちに介護におちいる様なそういう悪さをするのが歯周病菌だという事も出ておりますし、国の方では国民皆歯科健診、こういうのを骨太方針に出す。これは6月7月頃に出されると聞いております。そんなことを考えますと、この委員会には医師会から渡邊先生においでいただいていますけれども、ぜひ歯科医師会からも委員を出していただいて、そして私共委員の方にも歯科医師専門家の立場から色々な事をご指導いただくといいなともう思っています。委員はここ15人は定員なのだけれど、まだ余裕はあるので歯科医師会の方もご協力を頂く事でお話をしたことがあります。ぜひこれはまた第9期に向けての課題でやっていたらありがたいなともう思っています。

(須貝福祉介護課長)

検討させていただきます。

(佐藤副委員長)

自分の事を考えてみると、パソコンとかスマートフォンで上げてみようかなというのはあまりやらないのではないかなと思うのですが。集落の会合に出てくる人は伝えられるけれど、出て来ない人がかえって問題なのだと言っていましたけれど、何か特別な手を考えないと集落の座談会にも出て来ないし、何か声を掛けても響かないし、こういうのもやらないとなったらどうすればいいのだという、非常にいい事なのですけれど、心配されているお茶飲みにも出て来ない人にどう伝えればというのは何か仕掛けを作らないと、見てくださいといくら言ってみても繋がらない気がしますけれど、何か家族を巻き込むとか、孫を使っておじいさんおばあさんに教えてやるとか、何か仕掛けを考えないとやってくださいといくら言ってみてもやらないおじいさんおばあさんはやらないかも知れないね。自分の事を考えると孫に教えてもらうことがいっぱいあります。ですからスマホとかパソコンとかいうのをやってもなかなかじゃあやってみようかとかならない、申し訳ないけれど。

(須貝福祉介護課長)

お孫さんのいるお宅はいい手かもしれないですね。

(佐藤副委員長)

何か仕掛けを考えないと、市報に載せました、各戸配りませただけでは何かたりない気もするけれど、

(須貝福祉介護課長)

全ての高齢者のお宅に何う事は到底無理がございますが、その中でも一人暮らし高齢者、高齢者のみ世帯のお宅には民生委員の皆様のご協力をいただきながら年に1回は調査訪問という名目でお話をお聞きする。これまでも多くの民生委員の皆さんからあそこのあの方気になるなという連絡をいただいております。我々にそういった気になる所を連絡いただける所をもう少し委員の皆さんに協力をいただきながら、情報提供をしていただいた方には訪問しながら必要に応じて進めて行くといった事をなお考えて参りたいと思います。これは令和5年度には民生委員さんとも相談しながら考えて行きたいと思っています。あと有効な手立てがなかなか思いつきませんので何かいい案がございましたら教えて欲しいと思いますがよろしくお願いします。

(佐藤副委員長)

良い方法でもないのですけれど、さっき男ですか何歳ですかというのは分かると言っていましたけれど、固有名詞までは入れないですね。

(須貝福祉介護課長)

入れないです。

(佐藤副委員長)

固有名詞まで入れてしまったらどうかと思うのですが。

(須貝福祉介護課長)

項目を入れるとしても任意の項目でなかなか。固有名詞を入れるとまた抵抗を感じる方もいらっしゃるのではないかなという思いもあったのですけれど、様子を見ながら場合によってはそれを変えて行くのもいいのかもしれないなと思っておりますが、まずこれでやってみて実際反応がどれくらいだったかというのも見極めながら、できればまたこの場でも検討を深めて行けたらいいなと思っております。

(佐藤副委員長)

民生委員がやっている高齢者訪問調査の情報を市役所お持ちではないですか。あそこには個人の名前等それぞれの人が抱えている病気だとかいろんな情報がみんな入っていますよね。あれだけ持っているのだからだれでも見られる訳でもないでしょうしと思ったのですけれど。

(須貝福祉介護課長)

インターネットでという所もありますから、訪問調査と同じという訳には、そこは心配がございまして、そこで抵抗感を感じてしまうではいけませんから、その辺も含めてやってみないと見えてこないのかなと、やった所であまりにも利用される方が少ないですねとなったらそこは現状を変える対策を取らないといけないなどは思っています。市とのやり取りをメールを使って下さる高齢者も実は案外といるのです。これから5年後10年後を見た場合にはこういうパソコンを使ってやりとりする場面が確かに増えてくるのではないかなということも言えるのではないかと思っています。

(小林委員長)

県や市の公共施設の皆さん集まる所に掲示による広報、あと医療機関を利用する人はどこかで痛んで困っている訳ですから、そういう皆さんに待合の時間、待っている間にいろんな事で目に触れてこんなことも市はやっていると改めて見直すとかいろんな機会を使って市民に広報できるそんな方法ももし考えられたらいかがでしょうか。他に皆さん市民への周知、方法でご意見ありましたら、

(加藤委員)

私もフレイルなんていうのは知らなかった。今初めて分かりましたけれども、スマホとかインターネットをやる人はもう大丈夫なの。私なんて全然出来ないので。そういうことを出来ない人が年寄りなのですよ。わたしもこんな聞いて初めて言葉が分かりましたけれども、そういう人がいっぱいですよ。私なんてスマホも聞いてやる位しかないので、あとやってこうだあだなんてやれないからね。メールも出来ないしそんな人が多いのですよ。

(須貝福祉介護課長)

現状はそうですけども、これから5年後10年後先になると徐々に使える人も増えてくると思っていますし、今現状でも老人クラブの役員の方の中にもパソコンを使って市とのやり取りもしている方もいらっしゃいますので、決してこれが無駄だという訳ではなくて、並行して使えない方にはその方々への対策も引き続きやって行こうと思っていますし、その取り組みの一つとしてこれはやって行こうとこういう考えですので、いやこれもう作ったからもう訪問しませんとか地区に出向くのを減らしますとかそういう考えでは決してございませぬので、プラスこれもやりたいという事なので、よろしくお願いたします。

(傳委員)

私このチラシをいただいて先週自分の母親の状況を入力してみました。なので例えば30代、40代、50代の子供さんが自分の親のチェックの為に使ってもいいのかなと思いましたので、加藤さんの子供さんに定期的に自分の健康状態をチェックしてもらうために使うという方法も有りなのではないかと思えます。健康づくり課の方で5月から健診が始まるのですけれども、30代から2800人位去年は受診していましたので、その方達30代以上の人にチラシを配るといいうのも周知に使えるのかなと思えますので、

若い方にも関心を持ってもらうのもいいかなというのもお話を聞いていて思いました。

(須貝福祉介護課長)

佐藤副委員長がおっしゃった様に孫を使うというのは正にそういう事だと思います。

(小林委員長)

ほかにございますか。

(津野委員)

こちらのQRコードとかついているのですが、けっこう相談を受けるのがスマートフォンでセキュリティ対策をお年寄りの方は結構していて、アクセスしても登録できないという話が結構あるので、そこも含めて説明してあげると丁寧なのかなと思いました。

(久保田委員)

今ほどのお話のことをずっと聞いていまして、物事をいろんな面においてはいろんな方法をやっているのだけれども周知ができていないという事から私の考え方を述べます。こういう関係が一番だと私は思います。前回も要支援会議に私が出ました時に発言しまして、要支援で家庭内引きこもりの方を支援する何か対策をやってますかと聞いたら、やっていませんという答えでした。それで私築地地区の駐在さんの例を挙げまして、駐在さんが年1回まわってきますけれども家庭の人員構成ですか、だれがいますかとそういったものを全部書いていって、どこに勤めていますかとかそういう事までみんな書いていきますね。このことから民生委員さんに引きこもっている方を情報が分からないものですから、民生委員さんに、大変だろうけれども1軒1軒回ってもらって皆さんに家庭内でそういう方はいませんかという事をしてもらったら、物事は前に進んでいないですかとこの事を質問したのですよ。それに対して黒川病院の方が相談を受ける場所はいっぱいあるというのですね。だからそういう引きこもりを外へ出すことが大前提だということです。だからそれにはこういう関係が私は一番良い例なのかなと私は思います。それと同じで、このフレイルについても加藤さんが言われるような質問もそういったものも全然使いこなせない人が大勢いて、そういう人でも社会とつながりが希薄でたまりの場にもなかなか出て来ない人だと思うのですよ。その時に先ほど佐藤さんが最初の段階で民生委員さんが台帳があるなんて事を言われましたので、そういうのであれば民生委員さんから地域のたまりの場の一生懸命動いている方に今後ともこういう人が出て来ないから声掛けに行ってみてとお願いして、外へ引っ張り出す方法を考えた方がいいと思います。

(小林委員長)

いまのフレイルは5年度に予算もついてやるのだけれども、当然6年度以降の第9期計画にもたぶん重きを置かれる項目かと思しますので事務局の方どうぞよろしく願いいたします。

他にありませんか。

それでは3番その他へ行きます。私の方から前に第9期計画に盛り込むことでもし皆さん方からご要望ご提言等あればそれが9期計画に文章化されるかどうかは別にしてご意見があったら聞かせていただきたいということをお願いしておいたのだけれども、私は歯科医師会からの代表をぜひ委員の所に入れていただくことを思っておりましたが他に皆様方第9期に向けてのご要望等ありましたら今聞かせてください。

それでは特になければまた9期の計画がでた段階でまた意見を出していただければ相談を進めて行きたいと思っております。その他で信田さんの方から。

(事務局 信田介護保険係長)

市内介護保険事業所のサービス提供廃止について(資料3)により説明

(小林委員長)

とっさかの通所介護が今月末をもって止めて、その今まで利用されていた皆さんが他の所へ行ったとしてもまだ利用率が80%位だと、そんなものかなと思っていたのですが、これまた利用した人がもっといて順番待ちになるのではないかと考えていたのに、そんなものかなと思っていたのですけれどもこんなにくつか止めた事によって市民が困るという事は出ていない、8割くらいなのではないでしょうか。

(須貝福祉介護課長)

この傾向は以前からあったのですけれども、年々それが続いてきて背景には在宅介護、例えばその家の嫁さんが親の介護をしたりといった所がなかなか仕事の関係もあり、それから核家族化といった傾向も年々高まってきたという様な背景もあり、どうしても特に介護度が上がるほど在宅介護が難しく施設入所といった所で、これまで大きく施設入所に係る給付費が伸びてきたといった状況にもありまして、段々介護度の重い方の通所介護の利用が減ってきたのです。以前は一昔前ですと寝たきりの状態の方がデイを使って、デイサービスでお風呂を機械浴という事を使いながらといった利用の形態もかなりあったのですけれども、今ほとんどが軽度者の利用で、デイサービスの平均の介護度からすると要介護2くらいなのですね。軽度といわれる方しか利用しなくなったといった事もございまして、あとコロナの影響がどれくらいかというのは明確に見えないところがあるので、半年位前のデータなのではございますけれども、低いデイサービスセンターで60%の利用率、高い所が85%といったところでございまして、それがなお利用率が下がってきたといった傾向にございます。4月以降はデイサービスセンターの方は駅前にありますウェルネス中条、西条にありますアップル花はな、そして社会福祉協議会がやっている樽ヶ橋の所にありますいわはら荘という所で利用が出来る訳ですけれども、そうした利用率ですから希望して順番待ちとかではなくてすぐに利用できる、あと利用箇所も選択できると、ここしか空いていませんではなくてある程度は選択できるといった状況でございます。また同じ通いのサービスで愛広苑とかマチュアハウスとか、やまぼうしがやっている通所リハビリテーションを利用される方も実は少し伸びてきたという所なので、そのリハビリをやりたいといった方も増えてきているのかなという所もありますが、通所リハビリテーションの利用率を見ても十分余裕があるといった所で今度は利用者さんが相談しながら使いたい場所は何処なのかといった所で選択の幅が広がっていくのではないかと考えています。

(小林委員長)

資料3について、これで終わります。信田さん他にございますでしょうか。

(事務局 信田介護保険係長)

今後の会議の予定について説明

(小林委員長)(佐藤副委員長)(渡邊委員)(加藤委員)(伊藤委員)

退任のあいさつ

(佐藤副委員長)

閉会のあいさつ